

平成28年度分

泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした農業振興と創業支援
事業名	中小企業総合支援事業
事業概要	【最終予算額：3,422千円】
	【決算額：1,630千円】 専門的知識を保有する機関で経営相談を受け、中小企業者のニーズや経営状況により個別に判断し、中小企業者に最も適した支援策を提案する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：創業支援件数							
		KPI：5年間で130社/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	70社	90社				
		達成率	—	53.8%	69.2%				
		②目標事項：創業した件数							
		KPI：5年間で30社/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	20社	43社				
		達成率	—	66.7%	143.3%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—								
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 創業支援については、平成27年5月に策定した創業支援事業計画に基づき、商工会議所・日本政策金融公庫・地域金融機関と連携し実施。融資創業相談以外は、市と商工会議所での創業相談窓口として対応している。また、創業希望者を対象としたセミナーの開催や南海泉佐野駅周辺の商店街エリアで創業する方を対象に補助事業を実施。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 創業・起業に関する情報発信等の周知を強化し、創業希望者を対象としたセミナーや補助事業を実施していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 農林水産課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	農業等の振興
具体的施策	①地域資源を活かした農業振興と創業支援
事業名	泉佐野産（もん）普及促進事業
事業概要	【最終予算額：5,380千円】
	【決算額：5,114千円】 泉佐野で収穫された地場野菜や魚介類を活用したオリジナルレシピを基に、6次産業化に資するレシピを商品化し、地場製品のブランド化と6次産業化の促進を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：新たに雇用を創出する農商工連携または6次産業化を行う企業・団体数							
		KPI：5年間で3社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		1社	1社				累計
		達成率	—	33.3%	33.3%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B 平成28年度はシビック・モール事業の中で、昨年度作成したオリジナルレシピを活用し、特産品である水ナス、キャベツ、玉ねぎといった中から6次産業化のモデルとして松波キャベツのペーストの商品化を行った。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 平成28年度に作成したキャベツのペーストに関して、イベント等の中でPRを行い、更なる泉佐野産（もん）の普及促進を図る。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	まちの活性化課
-----------	-----	---------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	就労支援カレッジ事業
事業概要	【最終予算額：33,849千円】
	【決算額：33,655千円】 相談等から個々の状態や能力に応じた教育訓練カリキュラムを作成し、その職場実習活動等により社会参加や就労体験を通じて、一般就労への移行の支援を行う。就労経験の少ない若年者等への就労支援を行なうことによる労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消、農業の6次産業化の促進、さらには都市部から泉佐野市、泉佐野市から地方への地域間移動・移住を促進することを目的としている事業。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】							
		担当課評価	交付金先駆的事例事業として内閣府やマスメディアにも紹介され、注目されている事業であり、平成28年度は地方創生加速化交付金を活用し、農業を核に弘前市との地域間連携を図り、農業分野に従事する人材育成及び地方移住促進や農業就労者の増加による雇用創出を図る事業として実施した。また、研修生の受入や受入体制の充実など、積極的な事業展開を進めた。さらに、地方創生推進交付金を活用し、加賀市とも同様の連携を行うとともに、今後の新たな地域間連携先の検討に向けた基礎調査を行った。これらの取組みの結果、当該年度において10名の就労人材を育成できた。						
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】							
		引き続き、地方創生推進交付金の活用により当該事業を実施。弘前市及び加賀市のみならず、更なる連携拡大を検討し、泉佐野市や地方での職場体験の実施や2居住・移住を目指し取り組む。							
	委員会意見	【評価等に対する意見】							
委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	地域経済活性化プラットフォーム事業
事業概要	【最終予算額：55,800千円】 【決算額：32,631千円】
	市内事業者への安定雇用につながるようトライアル雇用や人材紹介。 EC市場が急成長していることに着目し、EC人材育成及び市内事業者のEC展開を拡大することで販路拡大による地域経済の発展をめざす。 市内での起業を促すため、中心市街地での起業を目指す方への補助及びチャレンジショップの展開

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：創業件数（本事業にかかる分）							
		KPI：4年後に20件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	4件				
		達成率	—	—	20.0%				
		②目標事項：海外等販路拡大事業者数							
		KPI：4年後に30社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	15社				
		達成率	—	—	50.0%				
		③目標事項：販路拡大（経済波及効果）							
		KPI：4年後に3億円							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	1,929万円				
		達成率	—	—	6.4%				
		④目標事項：雇用機会創出数（トライアル雇用数）							
KPI：4年後に50人									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値		—	6人						
達成率	—	—	12.0%						
平成28年度	評価(C)	【28年度評価】							
		担当課評価	女性の社会進出を主眼において実施。創業者については、チャレンジショップから2件、補助金から2件すべて女性であった。 雇用マッチングについては、事業者が求める人材はプロフェッショナル人材を求める傾向が強いこと、求職者は大和川以南の泉佐野市で仕事に携わることに抵抗があることなどミスマッチが生じた。 ECサイトを活用した販路拡大に取り組む事業者は国内市場だけでなく、閑空の地の利を活かした海外市場にも進出する事業者も複数であった。						
	改善(A)	【29年度における取り組みなど】							
		雇用マッチング事業については、無料職業紹介所や別事業である泉佐野創生カレッジ事業を活用して効率的に展開。 チャレンジショップ及び補助金については内容を精査し、引き続き継続予定。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	泉佐野創生カレッジ事業
事業概要	【最終予算額：43,117千円】
	【決算額：43,084千円】 個人起業家やフリーランス等が活用するコワーキングスペースを市内にて開設することで、あらゆる活動拠点として女性・障がい者・若年者の雇用・創業・起業支援、ソーシャルビジネス支援、地域コミュニティ交流、海外資源等を活用した新たなブランド創出、政策ビジネスプランコンテスト等による学生の参加等、泉佐野市のイノベーションが起こる拠点として取り組む事業

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性・若年者・障がい者の就労人数（就職・起業・雇用条件の向上）							
		KPI：3年間で90人（平成30年度まで）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		－	10人				
		達成率	－	－	11.1%				
		②目標事項：他地域と本市の地域資源等を融合した新たに商品化等された数							
		KPI：3年間で8件（平成30年度まで）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		－	1件				
		達成率	－	－	12.5%				
		③目標事項：地域内における経済波及効果							
		KPI：3年間で80,000千円（平成30年度まで）							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値		－	830千円						
達成率	－	－	1.0%						

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 平成28年度補正予算事業のため事業開始が1月下旬スタートとなり、事業展開期間は短期間であった。 短期間ではあるが、コワーキングスペースのオープンから創業・就労支援セミナー等の実施、こちらが求めていた事業については、遅滞なく履行された。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 泉州初的大型コワーキングスペースとして、利用者増に向けたプロモーション等を積極的に努めるとともに、地域の方々が集いたくなる空間をキャッチフレーズとして、通常のスペース機能の利用は勿論のこと、新たな仕掛けをどんどん実施することで泉佐野市からたくさんのイノベーションが生まれる空間づくりに取り組んでいく
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 政策推進課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	②企業誘致
事業名	企業誘致奨励事業
事業概要	<p>【最終予算額：63,231千円】 【決算額：43,002千円】</p> <p>市の発展と雇用の増大を図るなど、市民福祉の向上のため、市内に新たに事業所を建設・設置される方（企業）で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付する。</p>

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：企業誘致奨励金対象企業数							
		KPI：5年後に24社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	9社	7社	10社				累計
		達成率	—	29.1%	41.7%				
		②目標事項：上記企業の新規就業者数							
		KPI：5年後に1,513人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	513人	525人	1,048人				累計
		達成率	—	34.7%	69.2%				
		③目標事項：奨励金を活用した外資系企業の進出件数							
		KPI：5年後に3社							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	1社	1社	1社				累計		
達成率	—	33.3%	33.3%						

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		<p>担当課評価</p> <p>B</p> <p>平成27年度から交付対象企業が3社増加し、平成28年度中に申請企業も2社あり（交付は平成29年度以降）、今後も対象企業数は増えると予想されるため、ほぼ目標どおりに進捗しているものとする。</p>
	改善（A）	<p>【29年度における取り組みなど】</p> <p>当該奨励金は、着手届の提出があった企業にのみ申請書の送付を行っているため、対象となる企業であっても届出がない限りは奨励金の交付はしていない。より多くの企業に奨励金の活用が増えるよう、現在の周知方法等の工夫を検討。</p>
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	③地域産業の競争力強化
事業名	中小企業総合支援事業
事業概要	【最終予算額：3,422千円】
	【決算額：1,630千円】 専門的知識を保有する機関で経営相談を受け、中小企業者のニーズや経営状況により個別に判断し、中小企業者に最も適した支援策を提案する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：支援企業数							
		KPI：5年後に160社/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	71社	50社	73社				
		達成率	—	31.2%	45.6%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	平成27年度から、国の中小企業支援の拠点となっている「大阪府よろず支援拠点」と連携して経営相談を実施し、中小企業者のニーズに応じた情報提供や経営上の課題に対するアドバイスをして支援した。
	B		
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】		
	支援が必要な事業者に周知がいきわたっていない現状があるので、関係機関の連携の元、制度の周知を図る。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	③地域産業の競争力強化
事業名	関空立国ショーケース事業
事業概要	<p>【最終予算額：80,125千円】 【決算額：50,325千円】</p> <p>特産品相互連携協定市町村等、全国の逸品を本市に開設する観光情報案内及びアンテナショップにてPR販売することで販路拡大、安定雇用につなげていく。</p> <p>さらに、ECサイトでの販売、地域通貨システムの構築を図ることで、地域及び連携自治体での消費喚起、その運用を地域商社に委ねていく。</p> <p>規模間のある物産フェアやローカルベンチャーのハンズオン支援による地元起業支援や地方との交流を図ることで、新たなイノベーションを生み出す。</p>

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：当該事業による消費効果額							
		KPI：3年間で3,200万円以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	—	23万円				
		達成率	—	—	0.73%				
		②目標事項：アンテナショップ来場者数							
		KPI：3年間で2万人以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	—	472人				
		達成率	—	—	2.36%				
		③目標事項：連携自治体数							
		KPI：3年間で35都市以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	—	22都市				
		達成率	—	—	62.9%				
		④目標事項：観光客数							
		KPI：5年後に770万人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	530万人	822万人	786万人				
		達成率	—	106.8%	102.0%				
平成28年度	評価（C）	【28年度評価】							
		担当課評価	平成28年度補正予算による事業実施であり、当該年度については、平成29年度以降、スムーズに事業運用を進めるためのアンテナショップの開設、地域通貨システムのハード整備等が中心となった。短期間でありながら、連携自治体等の調整等も含めスムーズに中心市街地空き店舗を活用したアンテナショップ「泉佐野まち処」を開設することができた。 なお上記目標事項①、②の数値については、当該まち処が平成29年3月17日にオープンしたため、その日から同年3月31日までの数値。						
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】							
		アンテナショップについては、受託事業者が地域商社として連携自治体逸品の販路拡大や観光案内、地元の消費喚起等努めるとともに、秋頃よりスタートする地域通貨（ポイント）システムの参加店舗及び利用者の獲得による継続性のある事業とする。 さらにECサイト構築による販路拡大を図る。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	地域就労支援事業
事業概要	【最終予算額：5,350千円】
	【決算額：4,455千円】 働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	110人	236人				累計
		達成率	—	55.0%	118.0%				
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	4人	7人				累計
		達成率	—	6.0%	11.7%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	市内3か所にある地域就労支援センターにおいて、就労相談を実施しているが、相談者数はH27年度が175人（うち女性60人）、H28年度が121人（うち女性50人）と極端な増減はなかった。目標事項の「女性への支援件数」については、女性の相談者数と各種セミナーの参加者数を含めている。					
		B						
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】						
		相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。						
	委員会意見	【評価等に対する意見】						
委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	女性起業家創業支援事業
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】 起業・創業する意欲ある女性起業家に対して、初期費用に対する補助金を交付する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	－	110人	236人				累計
		達成率	－	55.0%	118.0%				
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	－	4人	7人				累計
		達成率	－	6.0%	11.7%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	－								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	平成28年度から加速化交付金を活用して、地域経済活性化プラットフォーム事業内にて、女性の社会進出を主眼において実施。創業者については、チャレンジショップから2件、補助金から2件すべて女性であった。					
		B						
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】						
		平成28年度から加速化交付金を活用して、地域経済活性化プラットフォーム事業内にて実施した。 平成29年度について、加速化交付金は終了したが、本事業内にて南海泉佐野駅周辺の中心市街地活性化や空き店舗、インバウンド対策等の政策間連携による事業の再構築を行い、事業展開を図っていく。						
	委員会意見	【評価等に対する意見】						
委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	地域雇用創造バンク事業
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】
	大都市圏等に在住するプロフェッショナル人材やスキルアップ等を培う研修を修了した人材を、バンクに登録し、市内の中小企業者等にトライアル雇用することで、安定した雇用につなげていく。地域が必要とする人材を育成・登録し、地域事業者とその人材を雇用マッチングすることにより、地域の雇用創出及び安定雇用を促進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	110人	236人				累計
		達成率	—	55.0%	118.0%				
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	4人	7人				累計
		達成率	—	6.0%	11.7%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	昨年度雇用者1名と比較すると、トライアル雇用3名、常用雇用が3名となり順調な結果となっている。バンク登録者及び人材育成数は増加しているが、当該事業にて常用雇用につなげていくにはまだまだハードルが高い。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】	
平成28年度については、加速化交付金を活用して地域経済活性化プラットフォーム事業内にて実施したが、平成29年度については、バンク事業の予算措置はしておらず、泉佐野創生力レッシュ事業等を活用しながら雇用マッチングを図っていく。			
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 高齢介護課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	人材還流・人材育成
具体的施策	⑤高齢者の就労支援
事業名	シルバー人材センター育成事業
事業概要	【最終予算額：12,088千円】
	【決算額：12,088千円】 高齢者の雇用の確保を促進するために、シルバー人材センターへの支援を行う。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：会員数							
		KPI：5年後に1,190人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	944人	993人	873人				
		達成率	—	83.4%	73.4%				
		②目標事項：契約件数							
		KPI：5年後に2,570件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2,402件	2,435件	2,173件				
		達成率	—	94.7%	84.6%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	近年、全体的に会員数及び契約件数ともに伸び悩んでいるため、会員増強に向けた取り組みとして、パンフレット作成やポスティングなどを行っている。 会員減少の理由としては、仕事の需要と供給のミスマッチや65歳までの継続雇用制度や65歳を過ぎても同じ職場で短時間で働き続けるケースが増えるなど、高齢者の就業環境の変化により新入会員減少していることと、会員の高齢化による退会者が増えていることなどが要因となっている。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 今後も会員増強のための、パンフレット作成やポスティングに取り組んでいく。	
		【評価等に対する意見】	
	委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	⑥人材育成・雇用機会の拡充
事業名	地域雇用創造バンク事業
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】
	大都市圏等に在住するプロフェッショナル人材やスキルアップ等を培う研修を修了した人材を、バンクに登録し、市内の中小企業者等にトライアル雇用することで、安定した雇用につなげていく。地域が必要とする人材を育成・登録し、地域事業者とその人材を雇用マッチングすることにより、地域の雇用創出及び安定雇用を促進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：トライアル雇用数							
		KPI：5年後に50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	－	3人	6人				累計
		達成率	－	6.0%	12.0%				
		②目標事項：地域雇用創造バンク登録者数							
		KPI：5年後に150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	－	60人	216人				累計
		達成率	－	40.0%	144.0%				
		③目標事項：人材育成数（研修等参加者数）							
		KPI：5年間で300人							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	－	34人	150人				累計		
達成率	－	11.3%	50.0%						

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	昨年度雇用者1名と比較すると、トライアル雇用3名、常用雇用が3名となり順調な結果となっている。バンク登録者及び人材育成数は増加しているが、当該事業にて常用雇用につなげていくにはまだまだハードルが高い。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】	
平成28年度については、加速化交付金を活用して地域経済活性化プラットフォーム事業内にて実施したが、平成29年度については、バンク事業の予算措置はしておらず、泉佐野創生力レッシュ事業等を活用しながら雇用マッチングを図っていく。			
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	人材還流・人材育成
具体的施策	⑥人材育成・雇用機会の拡充
事業名	就労支援カレッジ事業（再掲）
事業概要	【最終予算額：33,849千円】
	【決算額：33,655千円】 相談等から個々の状態や能力に応じた教育訓練カリキュラムを作成し、その職場実習活動等により社会参加や就労体験を通じて、一般就労への移行の支援を行う。就労経験の少ない若年者等への就労支援を行なうことによる労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消、農業の6次産業化の促進、さらには都市部から泉佐野市、泉佐野市から地方への地域間移動・移住を促進することを目的としている事業

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：相談者数							
		KPI：5年間で250人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	67人	211人				累計
		達成率	—	26.8%	84.4%				
		②目標事項：就労体験者数							
		KPI：5年間で150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	38人	163人				累計
		達成率	—	25.3%	108.7%				
		③目標事項：一般就労者数							
		KPI：5年後に25人							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—	3人	13人				累計		
達成率	—	12%	52%						

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】						
		担当課評価	交付金先駆的事例事業として内閣府やマスメディアにも紹介され、注目されている事業であり、平成28年度は地方創生加速化交付金を活用し、農業を核に弘前市との地域間連携を図り、農業分野に従事する人材育成及び地方移住促進や農業就労者の増加による雇用創出を図る事業として実施した。また、研修生の受入や受入体制の充実など、積極的な事業展開を進めた。さらに、地方創生推進交付金を活用し、加賀市とも同様の連携を行うとともに、今後の新たな地域間連携先の検討に向けた基礎調査を行った。これらの取組みの結果、当該年度において10名の就労人材を育成できた。					
	委員会意見	【29年度における取り組みなど】						
		引き続き地方創生推進交付金での委託により当該事業を実施。弘前市及び加賀市のみならず、更なる連携拡大を検討し、泉佐野市や地方での職場体験の実施や2居住・移住を目指し取り組む。						
		【評価等に対する意見】						
		委員会評価						

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 都市計画課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	定住促進の強化
具体的施策	①定住・移住の促進
事業名	住宅総合助成事業、空き家バンク制度
事業概要	【最終予算額： 50,000千円】 【決算額： 47,294千円】
	○住宅総合助成事業・・・本市で居住用の住宅を購入又は建設する方に対して、住宅の抵当権設定登記や所有権保存登記等に要した費用、及び引越費用を助成する。 ○空き家バンク制度・・・本市に定住を希望する方に対して、登録条件を満たした空き家の情報提供当をし市に定住を希望する方に対して、当該住宅を購入または賃貸する場合に、登記費用や引越助成。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：住宅総合助成事業申請件数							
		KPI：5年間で2,285件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	104件	305件				累計
		達成率	—	4.6%	13.3%				
		②目標事項：空き家バンク登録件数							
		KPI：5年間で295件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	28件	45件				累計
		達成率	—	9.5%	15.3%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	平成27年5月からはじまった住宅総合助成事業は、当初は周知不足等もあり、申請件数は伸び悩んでいたが、H27年度後半からは右肩上がりに増加してきた。H28年度の実績では、目標は下回っているものの継続して事業を推進していく。空き家バンク制度については、TV等で紹介されたこともあり、徐々に周知され登録件数は増加してきたが、平成28年は若干減少した。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 H29年度は前年実績から勘案して、住宅総合助成事業200件（予算上）を見込んでいる。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 人権推進課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	定住促進の強化
具体的施策	②移住を検討している女性や移住女性のための地域交流活動の促進
事業名	市民協働型事業（男女共同参画サポート事業）
事業概要	【最終予算額： 1,779千円】
	【決算額： 1,690千円】 誰もが各々の個性と能力を發揮できる地域づくりをめざして、市民（グループ）・事業者・教育関係など様々な立場の人びととのパートナーシップにより相談及び市民啓発事業を実施する。男女共同参画社会に向けた、各種講座、グループ支援、相談業務等を実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性センター年間利用者数							
		KPI：5年後に3,235人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	3,078人	5,302人	6,448人				
		達成率	—	163.9%	199.3%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 A 市民協働型事業の実施を通じて地域交流活動を促進させることで、新たな利用者層を掘り起こすことができた。センター内にて世代を超えた利用者間の交流が深まり、既存の登録グループへの参加や新たなグループの参加の成果があった。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 今後より一層、誰もが性差に関わりなくのびやかにいきいきと過ごせるようジェンダーの視点を重点的に発信させていく。そのひとつとして、男性参加を促す事業の企画を検討していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	まちの活性化課
-----------	-----	---------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口の拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	観光振興事業（まち処運営事業ほか）
事業概要	【最終予算額：95,598千円】 【決算額：95,598千円】
	日本政府観光局から認定された2カ所の外国人観光案内所（観光交流プラザ りんくうちまち処・観光情報プラザ 関空まち処）の運営。関西国際空港の玄関都市としての好立地を生かし、国内外の観光客の増加を促すことで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果のさらなる向上を図る。

計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：インバウンド観光客数							
		KPI：5年後に300万人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	110万人	210万人	199万人				
		達成率	—	70.0%	66.3%				
		②目標事項：外国人延べ宿泊者数							
		KPI：5年後に80万人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	67万人	102万人	92万人				
		達成率	—	127.5%	115.0%				
		③目標事項：手ぶら観光利用者数							
		KPI：5年後に16,200人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	17,494人	25,789人				
		達成率	—	107.9%	159.1%				
		④目標事項：まち処利用者数（外国人利用者数）							
KPI：5年後に20万人/年									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	86,697人	107,774人	122,863人						
達成率	—	53.9%	61.4%						

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B 海外からの訪日旅行ブーム及びインバウンド（訪日外国人観光客）が増加の一途をたどっていることから、国の方でも想定している目標数値を上回っている状況。本市においても、昨年度比で、一部数値が微減しているものの、観光客の増加に伴い地域での消費喚起も増えつつある。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 引き続き、さらなる観光客数増に向け、インバウンドをはじめとした観光客の受入れ環境整備等に取り組むことで、本エリアの活性化をめざす。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	Civic Mall事業
事業概要	【最終予算額：55,780千円】
	【決算額：50,405千円】 訪日旅行者（インバウンド）が増加の一途を辿る中、本市での宿泊者数も全国でトップ10入りするなど、インバウンドが行き交うまちとなりつつある。インバウンドに優しい受入環境整備の充実、ソフト事業としてインバウンド目線に立ったエリアマネージメントの取り組みを並行して実施することで、さらなる集客向上・消費喚起、地域経済の活性化を狙う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：地域づくり参加者数（泉佐野シティプロモーション推進協議会 会員数）							
		KPI：4年後に200人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	—	92人				
		達成率	—	—	46.0%				
		②目標事項：インバウンド観光客数							
		KPI：4年後に300万人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	—	199万人				
		達成率	—	—	66.3%				
		③目標事項：地域内における経済波及効果							
		KPI：4年後に80億円以上							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—	—	57億円						
達成率	—	—	71.2%						

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】	
		担当課評価	将来的に泉佐野市のエリアマネージメントを担う地域づくり活動へのハンズオン支援、本市のインバウンドや地域づくり事業に関する調査業務、海外を含むプロモーション活動、インバウンド受入環境整備として、観光周遊バスの運行、多言語案内整備、通訳ガイド育成業務等多岐に渡り、エリアマネージメントを担う人材育成や環境整備に取り組むことで、インバウンド受入環境整備が徐々に当該エリアに浸透しつつある。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】	
		シビックモール事業としては、人材育成や受入環境整備に必要なランニングコストは継続して実施。 他事業については、必要に応じて、他交付金を活用しながら継続して実施していく予定である。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 道路公園課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	観光周遊バス運行事業
事業概要	【最終予算額：2,809千円】
	【決算額：2,809千円】 地域の魅力の向上、交流人口の増加、滞在時間の延長、地域経済の活性化を図る目的で、本市域内にある観光資源や商業施設を巡回するバスを運行する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 今後も利用者ニーズの把握などに努めていく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	地方版MICE誘致推進事業
事業概要	【最終予算額：—】 【決算額：—】
	関西国際空港の玄関都市としての好立地を生かし、国際会議等のMICEを誘致・開催することで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：地方版MICE誘致件数							
		KPI：5年間で2件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	0	0				累計
		達成率	—	0.0%	0.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	当該事業は今年度、シビックモール事業の一環として実施。前年度に行った調査分析によれば、当該事業は空港隣接地である本市にとって大きな経済波及効果が期待できるものであるため、当該調査分析に基づき事業の手法や体制等を検討した。そこで、本市のDMOを担い観光分野での主体となると想定している団体「泉佐野シティプロモーション推進協議会」に、地方版MICE誘致をDMO事業の一環として位置づけてもらうべく、当該団体と準備・調整等を実施した。					
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 MICE誘致には専門的知識やネットワークが必要となることから、DMO関連事業として「泉佐野シティプロモーション推進協議会」による地方版MICE誘致に向けての研究・視察等を実施、早期誘致に向けて準備・調整等に取り組む。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	シティプロモーション推進事業
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】
	空港玄関都市としてのポテンシャルを活かし、地元航空会社等と連携したシティプロモーション等を実施し、市の観光地としての知名度向上や国内・外国人旅行客の集客を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	CivicMall事業の一環で、国内プロモーションとして、りんくうタウン駅ビル内のショーケースに公式キャラクター「イヌナギン」のマネキンや市のPR動画放映用の大型モニターを設置、またQRトランスレーターを表示した。また海外プロモーションとして、日本への来訪者が増加の一途であるタイにて、市のPRイベントを実施（3日間開催で全体の推定来場者数29,790人）、またタイのタレントが日本の名所を訪れるタイの観光番組で、本市を紹介する番組を製作・放映し、シティプロモーションを実施。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 引き続き、CivicMall事業の一環として、さらなるシティプロモーションの推進を図っていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 健康推進課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	外国人にやさしいまちづくり
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	国際医療交流の拠点づくり事業
事業概要	【最終予算額： ー 】 【決算額： ー 】
	がん医療や獣医療など地域の医療資源を活かし、海外との交流や医療機能の充実など、国際医療交流の拠点づくりに取り組む。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	ー					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	ー					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	ー							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】
		りんくう総合医療センター及び一般社団法人IMEDIATA（イメディアータ）は、外国人患者が来た場合の通訳での協力を行うとともに、医療面での病院間の連携を行うことにより国際医療拠点としての役割を果たす。
	委員会意見	【評価等に対する意見】
		委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	健康や医療目的の訪日観光促進事業
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】
	医療や健康目的での観光客訪日促進に取り組む。関西国際空港の玄関都市として、国際医療交流の推進及び訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進を目的に、りんくうタウン及び泉佐野市域は国から特区認定を受けている。その一環として、国が行う通訳案内士とは別に、特区内限定で通訳案内ができる特区ガイドを育成し、地域内の雇用創出等を含む経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：特区案内士登録者数							
		KPI：5年後に100人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	25人	52人	65人				累計
		達成率	—	52.0%	65.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	平成23年12月に指定されたりんくうタウン地域の地域活性化総合特区について、関係機関と連携による魅力ある地域づくりについて検討を重ねた。今年度はCivicMall事業の一環として、特区通訳案内士研修業務を実施。特区通訳案内士登録者数65人の内訳は、英語47人、韓国語4人、中国語14人である。					
	B							
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】							
	引き続き、大阪府等と連携し総合特区の優位性を見出せるよう取り組みを実施していく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	健康推進課
-----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	外国人にやさしいまちづくり
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	国際医療サポートセンター事業
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】 外国人が病院で診療を受ける場合に大きな課題となる医療通訳を多数養成し、域内外の医療機関との遠隔通訳ネットワーク化により、在住外国人はもとより、訪日外国人の医療サービスを充実し、訪日旅行の安全・安心をサポートする。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：医療通訳育成数							
		KPI：5年後に200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	75人	77人	80人				累計
		達成率	－	38.5%	40.0%				
		②目標事項：遠隔医療通訳ネットワーク医療機関数							
		KPI：5年後に50機関							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	1機関	1機関	－				累計
		達成率	－	2.0%	－				
		③目標事項：医療通訳実地研修修了者数							
		KPI：20人/年							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	－	21人	34人						
達成率	－	105.0%	170.0%						

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B 27年度に阪大病院国際医療センターが開始した医療通訳養成コースの現地実習をりんくう総合医療センターが担うことで育成に向けた取り組みを引き続き行っている（平成28年度現地実習修了者34名）。遠隔医療通訳ネットワーク医療機関数については、もともとTV会議システムを各医療機関に設置し遠隔通訳を行う計画であったが、通信網や技術面、費用面の課題がある。そのため、28年度より総合特区計画に合わせて医療通訳実地研修修了者数に目標事項を変更した。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 阪大病院医療通訳養成コースについては、29年度においても現地実習の受入れを継続する見込みである。その内修了者に対して、本センターで活躍していただけるように働きかけていく。通訳に関して、本センターの通訳件数は訪日外国人の増加に合わせて、26年度862件に対し27年度は1,402件と飛躍的に伸び、28年度も1,399件と高い件数を維持している。そのため夜間救急に病院を利用する外国人患者数も増え、時間外の対応が喫緊の課題である。体制整備のため平成28年4月より民間事業者の遠隔医療通訳システムを試験運用中であるが、平成29年度中の本格導入を目指す。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	ホスピタリティ・地域魅力の向上事業
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】
	訪日外国人が空港に最初に触れ、最後に訪れる地域として、外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上を図り、外国人の訪日促進につなげる。りんくうタウン及び泉佐野市域は国から特区認定を受けており、その事業の一環として、国が行う通訳案内士とは別に、特区内限定で通訳案内ができる特区ガイドを育成することで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：特区案内士登録者数							
		KPI：5年後に100人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	25人	52人	65人				累計
		達成率	—	52.0%	65.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成 28 年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	平成23年12月に指定されたりんくうタウン地域の地域活性化総合特区について、関係機関と連携による魅力ある地域づくりについて検討を重ねた。今年度はCivicMall事業の一環として、特区通訳案内士研修業務を実施。特区通訳案内士登録者数65人の内訳は、英語47人、韓国語4人、中国語14人である。
	B		
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】		
	広報等により、より一層の周知に努め、研修等の実施により登録者の増加に努める。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

まちの活性課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	①若い世代の経済的安定
事業名	地域就労支援事業（再掲）
事業概要	【最終予算額：5,350千円】
	【決算額：4,455千円】 働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：若者（20～34歳）の就業率							
		KPI：5年後に77%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	67.0%	—	67.6%				国勢調査 結果による
		達成率	—	—	87.7%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】	
		担当課評価	市内3か所にある地域就労支援センターにおいて、就労相談を実施しているが、相談件数は毎年、ほぼ横ばい傾向。
		B	

平成28年度	改善（A）	【29年度における取り組みなど】	
		相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。	

平成28年度	委員会意見	【評価等に対する意見】	
		委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 子育て支援課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	①若い世代の経済的安定	
事業名	泉佐野市結婚新生活支援事業	
事業概要	【最終予算額：2,700千円】	【決算額：360千円】
	経済的理由により結婚を躊躇している方に対し、新婚世帯の住居費及び引越費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安を軽減し、結婚の希望を叶えるとともに、少子化対策を推進する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：婚姻届出件数							
		KPI：450件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	439件				
		達成率	—	—	97.5%				
		②目標事項：結婚新生活支援事業補助金交付件数							
		KPI：補助金支給計画値：15件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	2件				
		達成率	—	—	13.3%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】						
		担当課評価	婚姻届出件数については、目標値に対する実績が約98%となり、ほぼ目標に達することができたが、支給件数については計画値15件に対する実績値が2件と約13%にとどまり、計画値を大幅に下回った。 (平成28年度実績) 補助金支給計画値：15件 補助金支給実績値：2件 (平成28年度実績) 婚姻届出件数目標値：450件 婚姻届出件数実績値：439件					
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】						
		支給件数の実績値が計画値を大幅に下回った要因としては、所得要件が低いことがまず第一に考えられる。「広報いずみさの」平成28年11月号に制度の紹介を掲載したところ、広報配布後約2ヶ月の間に問い合わせが10件以上あったが、ほとんど所得要件のため補助金交付申請対象外となった。平成29年度は大阪府を通じ引き続き国へ所得制限の緩和を働きかけるとともに、対象者へのより一層の周知をはかるため、不動産業者のほかに結婚式運営事業者等への広報も努める。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 健康推進課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	不妊治療費助成事業
事業概要	【最終予算額：5,023千円】
	【決算額：4,480千円】 不妊・不育治療を受けた夫婦の経済的な負担を軽減するために、検査や治療に要する費用の一部を助成する事業。夫婦合算の医療費の自己負担額の2分の1で、1カ年度5万円を上限とし、通算6年度まで助成する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：不妊治療費助成対象出生件数							
		KPI：5年間で100件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		3件	38件				累計
		達成率	—	3%	38%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 昨年度 (H27) からの取組であり、H28年度も前年度を超える助成件数 (108件) となる。引き続き事業継続していく。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 市民に広く、理解しやすい広報に努めていく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 健康推進課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	母子保健事業
事業概要	【最終予算額：112,855千円】
	【決算額：101,373千円】 妊産婦・乳幼児の健康の保持増進を図るため、健康診査や保健指導を行う。また、安心して妊娠・出産・子育てができるように相談支援を行う。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	従来から実施してきた事業について、子育て支援・児童虐待予防などを充実させていくとともに、産後の心のケアによる心身の健康保持に対応するため「産後2週間サポート事業」を実施する。平成28年度実績として、妊婦健診1,181人、乳児一般健診688人、乳児後期健診646人、4ヶ月健診692人、1歳6ヶ月健診796人、3歳6ヶ月健診702人、2歳歯科健診693人、経過観察健診201人、精密検査検診42人。					
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】						
		引き続き、産後の最も不安の高まる時期である産後2週間時に、産婦の心身の状況に応じて助産師等が対応する「産後2週間サポート事業」を医療機関委託で実施する。市民の利便性を高めるために、近隣市町と広域的に実施する。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

健康推進課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	乳児家庭全戸訪問事業
事業概要	【最終予算額：2,401千円】
	【決算額：1,858千円】 子どもの健やかな成長と保護者の子育てを支援するため、生後4か月までの乳児のいる家庭を助産師等が訪問し、育児に関する情報提供や乳児の家庭訪問などを行う。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	継続して実施していく。訪問実績は、平成27年度対象者814人中769人訪問、平成28年度対象者736人中698名であった。留守の場合は、数度の訪問により支援の機会の提供に努めているが、転出・長期里帰りなどで全戸訪問に至っていない。
		B	

平成28年度	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】
		産後2週間サポート事業などと連携しながら、内容の充実を図る。

平成28年度	委員会意見	【評価等に対する意見】	
		委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	養育支援訪問事業	
事業概要	【最終予算額：429千円】	
	【決算額：201千円】 養育支援が特に必要であると判断した家庭に対し、助産師又は専門的知識及び経験を有する子ども家庭サポーター協議会の会員が、その居宅を訪問し、養育に関する指導、助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 支援が必要な家庭に適切な支援を行うことにより、育児不安の解消、妊娠出産時の負担軽減等に繋がっており、また、児童虐待の未然防止が図られている。 (平成28年度実績) 対象家庭：10家庭、訪問回数：56回 (平成27年度実績) 対象家庭：17家庭、訪問回数：93回
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 支援員を増員し、体制の充実を図る。また、適切な相談に対する傾聴、助言及び指導ができるよう支援員のスキルアップ研修を年に2回実施することで、養育支援訪問事業の充実を進める。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	人権推進課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	総合相談事業
事業概要	【最終予算額：22,123千円】
	【決算額：22,057千円】 外国人やハイリスク妊婦、障害のある人等への医・食・住に関する生活情報の提供をはじめ、出張相談や時間外相談、通訳等の同行など、総合相談機能の充実を図り、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：総合相談件数							
		KPI：5年後に3,080件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2,735件	2,800件	3,178件				
		達成率	—	90.9%	103.1%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 A 多数の複雑な相談ケースに対応してきた。特に妊産婦や乳幼児、未成年者、精神疾患のある人、生活困窮者等の複数の課題を抱えるDV被害者等の相談について適切に対応したと思われる。また、住基支援相談等も格段に増え、警察署との連携を円滑に図り、安全・安心を第一に対応した。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 相談の初期インテークが非常に重要であるので、今後も相談員のスキルアップを図るとともに、障害者差別解消法やマタニティ・ハラスメント等、増えつつある新たな課題に対しても、適切に迅速に対応していけるよう、相談事業連絡会議の充実や職員研修、民間支援機関との連携に注力していきたい。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 障害福祉総務課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	地区福祉委員会活動支援（ふれあいのまちづくり事業）
事業概要	【最終予算額：11,094千円】
	【決算額：11,094千円】 地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動（地区福祉委員会主催）の支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：子育てサロン実施箇所							
		KPI：5年後に15か所/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	15か所	15か所	15か所				
		達成率	—	100.0%	100.0%				
		②目標事項：子育てサロン開催回数							
		KPI：5年後に340回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	316回/年	315回/年	315回/年				
		達成率	—	92.6%	92.6%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】						
		担当課評価	子育てサロンは、前年と同様の箇所で、概ね同回数の開催ができた。サロンの開催により、子育て中の親子が参加し、地域のボランティアなどと一緒に交流活動を行うことで、子育て中の親子が地域で孤立してしまうことを防止することができた。また、様々な子育ての悩みなどを相談する場にもなり、思い悩んで子どもへの虐待に陥ってしまうことを防止することにもつながっている。特に近年では、若い子育て世帯の転入が多い地域もあり、そのような地域では、子育てサロンの開催効果は非常に大きい。					
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 今後は、現状の実施箇所での次の担い手育成と併せて、他のこども関連施策との連携も図っていくことで、活動の幅をより充実させて行くことが求められる。また、本当に支援を必要とされる人がサロンへ参加できるよう、参加しやすい環境づくりの支援を行っていくことも必要である。このようなことも踏まえて、市としては、引き続き、事業の周知と参加促進及び運営支援を行っていく。						
委員会意見	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

子育て支援課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	こども医療費助成事業
事業概要	【最終予算額：262,643千円】
	【決算額：255,987千円】 中学3年生までの入通院に係る医療費の一部を助成する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：助成対象者数（通院）							
		KPI：5年後に13,989人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	7,915人	9,019人	12,415人				
		達成率	—	64.5%	88.7%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	4月より、通院助成についても、小学4年生から中学3年生まで対象年齢の引き上げを行い、入通院とともに中学卒業年度末までの助成が可能となり、保護者の負担の一層の軽減を図ることができた。					
		B						

平成28年度	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】						
		引き続き適正な医療費助成を行えるよう、対象者への案内や事務を実施していく。						

平成28年度	委員会意見	【評価等に対する意見】						
		委員会評価						

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 子育て支援課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	ひとり親家庭医療費助成事業
事業概要	【最終予算額：79,017千円】
	【決算額：78,857千円】 ひとり親家庭における18歳の年度末までの児童及びその児童を養育する親の入通院に係る医療費を助成する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B ひとり親家庭の医療費の一部を助成することにより、ひとり親家庭の健康保持や生活の安定が図られている。 (平成28年度実績) 助成件数：30,461件 (平成27年度実績) 助成件数 29,734件
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 引き続き、対象者の医療費の負担軽減につながるよう、適切な周知案内に努める。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

子育て支援課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	幼児教育・幼児保育
事業概要	【最終予算額：2,301,956千円】
	【決算額：2,254,075千円】 教育または保育を必要とする児童に対し、質の高い教育・保育を行い、待機児童数ゼロを堅持する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価
		B 所得状況に応じた保護者の経済的負担の軽減と、公・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を目的に、幼稚園の入園料及び保育料を軽減している。 また、保育に欠ける保護者からの申し込みにより、入所判定会議を経て入所児童を決定し、保育料の徴収を行い、保育を実施する。 (実績) 待機児童数 0件

平成28年度	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 引き続き、待機児童数ゼロを堅持する。
		【評価等に対する意見】

平成28年度	委員会意見	委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 子育て支援課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	地域における子育て支援サービス
事業概要	【最終予算額：8,661千円】
	【決算額：8,038千円】 地域子育て支援拠点事業（地域子育て支援センター）やファミリーサポートセンター事業など、在宅で保育を行う家庭を含むすべての子育て家庭に対して、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	担当課評価	【28年度評価】 地域住民と子育て家庭の交流・連携を図る講座や催し等を実施し、地域における子育て支援を推進する。 （28年度実績）地域子育て拠点事業 つくしんぼ 利用者5,969組 相談数28件 ファミサポ分 講座件数：95件 参加者数：585人（おとな） 486人（子ども） （27年度実績）地域子育て拠点事業 つくしんぼ 利用者5,016組 相談数39件 すえひろ保育園 利用者619組 相談数30件 ファミサポ分 講座件数：78件 参加者数：442人（おとな） 370人（子ども）
		B	
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 引き続き、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	放課後児童対策事業	
事業概要	【最終予算額：128,043千円】	
	【決算額：122,516千円】 保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供し、平成27年度からは新たに学びのプログラムを導入している。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—					
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】
		小学校5～6年生の長期休業期間中の受入を開始することにより、高学年児童の家庭に代わる生活の場を提供し、児童の健全育成を図ると共に保護者が安心して仕事と子育ての両立ができるよう支援することを目的とする。
	委員会意見	【評価等に対する意見】
		委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 教育総務課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	安心安全な小学校給食事業（アレルギー対応食提供）
事業概要	【最終予算額：616千円】
	【決算額： 16千円】 従来の食物アレルギー対応（乳・卵）に加え、副食に乳または卵が含まれる場合に主食を食べ易くすることを目的として、副食（佃煮類やジャム等）を提供する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： アレルギー対応率							
		KPI： 5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	72.7%	67.8%	91.2%				
		達成率	—	67.8%	91.2%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】	
		担当課評価	小学校給食では乳・卵の食物アレルギーを持つ児童が多いと認識しているため、副食に乳・卵を含む献立を控えている傾向にあります。平成28年度は1（回/月）程度の補食を提供しました。 平成28年度の補食に関しての利用実績や学校現場の意見を集約し、事業の分析を行いたいと考えます。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 平成28年度と同様に補食の種類も模索しながら改善を図りたいと考えます。	
委員会意見		【評価等に対する意見】	
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 教育総務課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	安心安全な中学校給食事業（アレルギー対応食提供）
事業概要	【最終予算額：154千円】
	【決算額： 8千円】 従来の食物アレルギー対応（乳・卵）に加え、副食に乳または卵が含まれる場合に主食を食べ易くすることを目的として、副食（佃煮類やジャム等）を提供する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： アレルギー対応率							
		KPI： 5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		43.5%	98.9%				
		達成率	—	43.5%	98.9%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（B）	【28年度評価】	
		担当課評価	中学校給食では小学校給食に比べると少数ではあるが、乳・卵の食物アレルギーを持つ生徒が存在するため、副食に乳・卵を含む献立を控えている傾向にあります。よって、平成27年度2学期からの実績で2～3（回/月）程度、補食を提供している状況です。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】	
		平成28年度と同様に補食の種類も模索しながら改善を図りたいと考えます。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	健康推進課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	泉州広域母子医療センターの充実
事業概要	【最終予算額：29,180千円】
	【決算額：29,180千円】 平成20年4月より、りんくう総合医療センターと市立貝塚病院の産婦人科を統合、りんくう総合医療センターを周産期センター、市立貝塚病院を婦人科医療センターとすることで、泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用している。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 24時間365日、2人以上の産科医と1人以上の新生児専門小児科医の常時待機により、ハイリスク妊婦等についても安心安全なお産ができる体制を整えることで、泉州地域における周産期医療機能の確保を図ることができた。平成27年度の分娩実績は856件であった。そのうち224件は帝王切開である。また344件はハイリスク分娩（早産・高齢出産・多胎出産・妊娠糖尿病などの合併症で危険性が高い分娩）に位置づけられる。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 NICU（新生児集中治療室）等を適切に運用することにより、ハイリスク出産、合併症妊婦、疾病新生児、早期産児等を積極的に受け入れる。さらに、救命救急センターとの連携強化や地域医療機関と役割分担をしたうえで普通分娩も積極的に受け入れ、安定した運営に努める。また、泉州こだわりタオルを素材としたオリジナルおくるみタオルを出産のお祝い品としてプレゼントするとともに、妊産婦食事を改善するなど、利用者の満足度向上を図る。各種の市民講座を開催し、広く地域住民に周産期医療の現状などを知ってもらう機会をつくる。
		委員会意見

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	地域医療の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	泉州南部初期急病センターの充実	
事業概要	【最終予算額：66,010千円】	
	【決算額：60,017千円】 泉州南部地域における休日等の一次救急医療供給体制を確保する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 平成26年4月に移転開設を行ない、立地や駐車台数の大幅増など通院環境が整備されたことも影響し、患者数が急増した。インフルエンザ流行期には、診療時間内に診察を終えることが困難な診療日が多くなるも、関係団体等の協力を得て、臨時的に体制を強化するなどし、安定した一次救急医療供給体制を確保してきた。平成27年度実績は、122日診療7,128人受診。平成28年度は、122日診療6994人受診であった。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 泉州地域は、平日夜間の一次救急医療供給体制が未整備である。これは、泉州南部初期急病センターにおいては、従事スタッフの確保が困難なことが主な要因である。この案件は長年の懸案事項であったが、調整の結果、関係団体の協力により、ようやく、平日夜間（20時から23時）の一次救急診療を1日間（木曜日）実施できる運びとなりH28年6月に開始した。今後も、その他平日夜間の運営について、引き続き調整していくこととなる。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	ICT活用教育推進事業	
事業概要	【最終予算額：4,328千円】	
	【決算額：4,328千円】 市内小中学校にPCやタブレット等の環境整備を行うとともに、教職員がICT機器の特性を理解し、授業において効果的に活用できる環境をつくることにより、よくわかる授業づくりと学力の定着・向上をめざす。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：タブレットの基本操作の習得率							
		KPI：5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	95.0%	95.0%				
		達成率	—	95.0%	95.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B タブレット導入時にICT支援員を派遣し、教職員への支援と授業での活用サポートをきめ細かく行ったことにより、児童のタブレットの基本操作習得は当初の予定よりも早いと認識している。放課後学習でもタブレットを使用し、積極的に児童が自ら学ぼうという姿が見られる。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 新入生への基本操作の指導及び新転任の教員への重点的な支援を行い、学校全体でタブレットを活用した特色ある教育活動を展開する。また、児童自身がタブレットをうまく使えることができるようになったことで、教員がタブレットを活用した学習計画や指導案を作成など、その特性を理解し効果的な活用を求めて研修を深め実践していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業	
事業概要	【最終予算額：14,405千円】	
	【決算額：10,302千円】	
子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため各学校の取組みに対し人的支援を行う。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：学習意欲の改善							
		KPI：5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	80%	96.2%	92.3%				
		達成率	—	96.2%	92.3%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】						
		担当課評価	KPI①【全国学テ学校質問紙：「対象学年の児童生徒は熱意を持って勉強しているか」肯定的回答の小中平均】 小学校：できている15.4%+ほぼできている69.2%=84.6% ① 中学校：できている40%+ほぼできている60%=100% ② (①+②)÷2=92.3 退職教員や学生ボランティア等の地域人材を活用して、学校が主体的に取り組む放課後学習やクラブ活動を支援した。 学習：登録者58名、配置人数のべ67名・実人数38名、実施回数 小学校438回・中学校150回 クラブ：登録者10名、配置人数10名、実施回数591回					
	B							
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】							
	各校の実態によって参加対象となる児童生徒の学年や人数は様々ではあるが、放課後学習自体は市域全体で定着している。また、ICTの活用等、実施内容についても各校の実態やニーズに応じ、より効果的な事業実施となるよう市教委と学校で連携して充実を図っていく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 学校教育課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業
事業概要	【最終予算額：14,405千円】
	【決算額：10,302千円】 子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため各学校の取組みに対し人的支援を行う。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善							
		KPI：「運動が嫌い」5年後に小5：9.1%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	11.7%	11.8%	14.4%				
		達成率	—	77.1%	63.1%				
		②目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善							
		KPI：「運動が苦手」5年後に小5：21.2%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	23.7%	21.9%	-				
		達成率	—	96.8%	-				
		③目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善							
		KPI：「自分の体力に自信がない」5年後に小5：11.9%							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値		-	13.2%						
達成率	—	-	90.1%						

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 体力向上プログラム推進校児童を日本体育大学に派遣し、スポーツ交流を実施したほか、各学校における児童・生徒の体力向上をめざす取組みに対して、大阪体育大学との協定に基づき教員や学生を派遣した。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 28年度は2学期以降の活用となり、人的支援を希望する学校が少なく、予算を効果的に使う事が出来なかった。それには、市教委側の発信不足も考えられる。 29年度は、6月からの活用をめざし学校が実施する内容に沿った形で活用できるよう、市教委側の計画を明確にし、それを発信していく必要がある。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業	
事業概要	【最終予算額：14,405千円】	
	【決算額：10,302千円】 子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため各学校の取組みに対し人的支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が嫌い」5年後に中2：15.0%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	18.7%	18.2%	17.4%				
		達成率	—	82.4%	86.2%				
		②目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が苦手」5年後に中2：34.2%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	35.2%	36.4%	-				
		達成率	—	93.9%	-				
		③目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「自分の体力に自信がない」5年後に中2：21.1%							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値		-	23.4%						
達成率	—	-	90.1%						

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 体力向上プログラム推進校児童を日本体育大学に派遣し、スポーツ交流を実施したほか、各学校における児童・生徒の体力向上をめざす取組みに対して、大阪体育大学との協定に基づき教員や学生を派遣した。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 28年度は2学期以降の活用となり、人的支援を希望する学校が少なく、予算を効果的に使う事が出来なかった。それには、市教委側の発信不足も考えられる。 29年度は、6月からの活用をめざし学校が実施する内容に沿った形で活用できるよう、市教委側の計画を明確にし、それを発信していく必要がある。
		【評価等に対する意見】
	委員会意見	委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進
事業名	泉佐野市の未来を創る教育事業
事業概要	【最終予算額：13,099千円】
	【決算額：11,577千円】 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：全国学力・学習状況調査（小学校 算数） 結果の改善							
		KPI：5年後に全国平均（全国平均正答率との差が0）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		-3.3	-1.9				
		達成率	-	-	-				
		②目標事項：全国学力・学習状況調査（小学校 国語） 平均正答率の差							
		KPI：5年後に全国平均（全国平均正答率との差が0）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		-1.3	-2.4				
		達成率	-	-	-				
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	-								

平成 28 年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 退職教員の人材を活用して、市全体の学力向上と各校の研究を推進するための児童・生徒の学力向上、教職員の指導力等の向上や保護者への指導・助言を行った。 学力支援コーディネーター：1名 学力向上アドバイザー：2名
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 他の事業で行っている、放課後学習のまなびんぐサポートや平成27年度より実施している算数サポートなどの事業を組み合わせ、市域全体の学力向上を図ります。
委員会 意見	【評価等に対する意見】	
	委員会 評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	⑤国際交流の推進
事業名	モンゴル国トゥブ県との友好交流事業（泉佐野市の未来を創る教育事業）
事業概要	【最終予算額：3,884千円】
	【決算額：3,641千円】 モンゴル国トゥブ県との友好交流の覚書に基づき、中学生が現地を訪問し、遊牧民の生活を学び、日本の遊びを紹介するなど友好の絆を深めている。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：モンゴル国友好交流参加者数							
		KPI：5年間で50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	10人	10人	20人				累計
		達成率	—	20%	40%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B 中学生がモンゴルの雄大な自然の中で暮らす遊牧民の子どもとの交流やゲルでの宿泊を通してモンゴルの生活や文化等についての理解を深めるとともに、日本の生活や文化等についても発信していくなかで、郷土についても理解を深めることができた。また、言葉が通じなくても気持ちを伝えられることやコミュニケーション力の大切さについても学ぶことができた。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 トゥブ県庁との連携・協力を密にし、現地での交流内容を充実させる。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	⑤国際交流の推進
事業名	青少年海外研修事業
事業概要	【最終予算額：7,919千円】 【決算額：6,864千円】 青少年をオーストラリア・クィーンズランド州サンシャインコーストへ派遣し、英語研修を中心としてホームステイや学校訪問、高齢者施設訪問などの交流を実施する。豊かな国際感覚を身につけた人材育成と友好都市交流を推進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：青少年海外研修派遣人数							
		KPI：5年間で50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	10人	10人	20人				累計
		達成率	—	20%	40%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 高校生から大学生までの青少年10名を18日間派遣した。現地では毎日英語研修を受けるとともに、学校や高齢者が集うコミュニティセンターを訪問し、泉佐野市や日本文化を紹介した。また、ホームステイでは、異なる文化の中で生活することにより多様な価値観を学んだ。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 派遣先でのホームステイ体験や英語レッスンでの内容を充実させることにより、オーストラリアの生活や文化等について理解を深めると共に、積極性やコミュニケーション力の向上を図ります。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	⑤国際交流の推進	
事業名	文化交流事業（国際交流推進事業）	
事業概要	【最終予算額：2,482千円】	
	【決算額：2,044千円】 子どもたちが自分の郷土の良さを再発見し、海外への見識を広げる機会とする小中学生の交流事業を実施する。平成26年度は絵画交流事業（派遣・受入）を実施したが、平成27年度からは英語教育推進校児童派遣事業を実施した。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：英語教育推進校児童生徒派遣人数							
		KPI：5年間で10人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2人	3人	6人				累計
		達成率	—	30.0%	60.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】						
		担当課評価	英語教育推進校である長南中学校生徒3名をオーストラリア・サンシャインコーストへ派遣した。英語レッスンとホームステイ体験を実施し、異なる言語・文化の中で生活することにより、日本と外国との違いに気づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を養った。					
	B							
改善（A）	【29年度における取り組みなど】							
	派遣先でのホームステイ体験や英語レッスンでの内容に対応するため、青少年海外研修事業と同じ内容の事前研修に参加することにより、積極性やコミュニケーション力の向上を図ります。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課

学校教育課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	⑤国際交流の推進
事業名	マラソン交流事業（国際交流推進事業）
事業概要	【最終予算額：2,482千円】
	【決算額：2,044千円】 生涯にわたってスポーツを楽しむ人が増加する中、マラソン大会への参加を中心とした社会人の国際交流を実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：マラソン大会 派遣人数						
		KPI：5年間で10人						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2人	2人	5人			累計
		達成率	—	20.0%	50.0%			
		②目標事項：マラソン大会 招聘人数						
		KPI：5年間で15人						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	3人	3人	4人			累計
		達成率	—	20.0%	26.7%			
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B 【派遣】サンシャインコーストマラソン大会へ市民ランナー2名（男女各1名）及び泉佐野市陸上競技連盟の役員1名を派遣した。 【招聘】第24回泉州国際市民マラソン大会に参加する海外友好都市ランナーをモンゴル国トップ県から1名を招聘し、大会出場と併せて市長表敬訪問、市内観光などの実施により友好都市交流を推進した。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 【派遣】サンシャインコーストマラソン大会については、国際交流事業として引き続き市民ランナー2名を派遣していく。 【招聘】引き続き海外招待選手を招聘できるよう、泉州国際市民マラソン大会主催者に要望していく。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 人権推進課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	男女共同参画社会づくりの推進
具体的施策	⑥仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の啓発
事業名	自己啓発事業等の実施（市民対象）
事業概要	【最終予算額： 1,779千円】 【決算額： 1,690千円】
	男女共同参画の視点に基づく各種講座や自己啓発事業を開催するとともに、相談体制の充実を図る。男女共同参画社会に向けた、各種講座、グループ支援、相談業務等実施。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：自己啓発事業実施回数（市民）							
		KPI：5年間で20回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	7回	11回				累計
		達成率	—	35.0%	55.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】	
		担当課評価	豊かで生き生きとした地域づくりをめざし、ワーク・ライフ・バランスを啓発できるよう幅広い世代が参加できるよう様々なジャンルでの事業を実施できた。限られた財源のなか、他機関との共催等の工夫を凝らせた。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】	
		引き続き、ワーク・ライフ・バランスが啓発できるよう、男女がともに参加できる事業を展開していく。特に、子育て世代を支援できる講座やシニア世代の男性層のセカンドライフの充実を図る事業の企画を図っていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	男女共同参画社会づくりの推進
具体的施策	⑥仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の啓発
事業名	セミナーや啓発事業等の実施（企業、事業所対象）
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】
	経営者、管理者の意識改革を目的としたセミナーや研修を開催する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：セミナー等の実施回数（企業）							
		KPI：5年間で50回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	0	4				累計
		達成率	—	0.0%	8.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 C 泉佐野・熊取・田尻町事業所人権連絡会を通じ、男女共同参画社会づくりの推進に資する経営者及び管理者向けの研修・講演会を実施した。 また、性別をはじめとした本人の能力と関係のない事柄で就職における採否を決定することの無いよう、同連絡会会員宛てに啓発パンフレット等を送付した。 【平成28年度セミナー等実績】セクハラ・パワハラや公正採用選考、LGBTの就労支援等に関するテーマで連絡会やハローワークにて4回開催。うち、連絡会が主催した2回の講座には47名の参加者があった。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 引き続き関係課や関係団体と連携しながら、取り組みの充実を図り、ワークライフバランスの啓発に努めていく。
		【評価等に対する意見】
	委員会意見	委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	子育て支援課
-----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	⑦出会いの支援
事業名	婚活イベント等の共催・後援など（出会いの機会創出事業）
事業概要	【最終予算額：14,451千円】（繰越） 【決算額：2,916千円】 異性との交際・結婚を望みながらも、その相手にめぐり会っていない独身男女に対し、出会いの場を提供するための体験型婚活イベント等を開催。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：婚活イベントとの共催等件数							
		KPI：5年間で10件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	4				
		達成率	—	—	40%				
		②目標事項：セミナー・啓発事業等の実施回数							
		KPI：5年間で10回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値		—	4				
		達成率	—	—	40.0%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	担当課評価	【28年度評価】 セミナーの満足度は高く、実際にイベント参加者にとっても出会い前の準備が必要であるとの感想が多く見受けられた。また、参加者による今後の婚活意向についてのアンケート結果においても、「交流イベントに参加したい」、「セミナーに参加したい」という意見が多かった。 (平成28年度実績) 申込者数：67名、参加者数：60名、カップル数：21組
		B	
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 婚活ニーズは、シンプルに出会いたいというものが多数であり、交流中心の企画が効果的であると考え、気軽に参加できるイベント内容の実施を進める。また、周知募集については、費用対効果の観点から新聞折込によるリーフレットの配布は行わず、SNS等の電子媒体を積極的に活用するなど、効率的に行う。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 道路公園課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	①交通ネットワークの整備
事業名	コミュニティバス無料化事業
事業概要	【最終予算額：9,661千円】
	【決算額：9,661千円】 地域の生活拠点を運行するコミュニティバスを無料化することにより、交通弱者の社会参加等を促進するとともに、通勤・通学等の経費減により転入促進を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：コミュニティバス利用者数							
		KPI：5年後に111,000/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	68,500人	99,747人	151,978人				
		達成率	—	89.9%	136.9%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	無料化による利用者の伸びが予想を上回り、重要業績評価指標を今年度達成した。
	A		
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】		
	平成29年10月から市内幸町に新停留所を新設し、更なる利便性の向上を図っていく。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 政策推進課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	②時代に合った行政サービスの実現
事業名	近隣市町との事務連携、権限移譲
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】 泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町における福祉分野を広域連携化し、「広域福祉課」を設置。社会福祉法人の認可事務等10事務を共同で処理している。これまで取り組んできた消防やまちづくり関係業務など、地域の特性に応じた近隣自治体の広域連携をさらに強化するとともに、民間活力の導入、ICTの推進、権限移譲の推進など、行政サービスの向上を図るものである。

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：広域連携事務数							
		KPI：5年後に55事務							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	40事務	40事務	56事務				累計
		達成率	－	72.7%	101.8%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	－								

平成28年度	評価(C)	【28年度評価】						
		担当課評価	平成28年度は農林分野12事務及保健分野2事務について、3市3町の広域連携により事務処理受託。また、広域福祉課で手帳交付事務2事務が追加された。 ※KPIは目標数値に達するが、H29.10にまちづくり分野24事務が、単独で行うことになるため、評価はBとした。					
	B							
改善(A)	【29年度における取り組みなど】							
	農林分野3事務を広域連携で権限移譲を受託。また、権限移譲以外の市町独自事務についても、共同化できるものは実施していく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 総務課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	②時代に合った行政サービスの実現
事業名	公共施設等の耐震化・改修事業など
事業概要	【最終予算額：592,029千円】
	【決算額：542,609千円】 公共施設等総合管理計画を策定し、長期的視点に立った更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより、公共施設等の最適な配置を実現する。 庁舎耐震改修工事を27・28年度で施工完了 公共施設等総合管理計画を27・28年度で業務委託委託して策定完了

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 庁舎耐震改修工事等を27・28年度で施工完了した。 公共施設等総合管理計画の策定については、27・28年度で完了した。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 策定した公共施設等総合管理計画の維持・更新作業を行うことで、今後の公共施設等の最適な配置に努める。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 市民協働課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	草の根防災訓練（災害対策事業）
事業概要	【最終予算額：18,696千円】
	【決算額：17,316千円】 地域の団体が、市の提示する訓練メニューから訓練内容を選択して実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：自主防災組織率							
		KPI：5年後に97%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	77.41%	81.6%	90.4%				
		達成率	—	84.1%	93.2%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 市民防災の日に大防災訓練を実施し防災意識の高揚を促す。また、大防災訓練に参加した自主防災組織への補助金を増額し防災訓練の機運を高め、活動の促進を図る。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 市民協働課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	女性消防団員の採用
事業概要	【最終予算額： 1,987千円】
	【決算額： 1,410千円】 市民の安全・安心を確保するため、平常時は防火・防災知識の普及啓発や応急救護の指導、災害発生時は、救護活動や避難所運営の支援等の後方活動を行い、女性特有のニーズや心づかいを地域の防災に活かす。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：消防団員数						
		KPI：女性消防団員の条例定数20人（男性を含めて150人）を維持する。						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	147人	147人	148人			
		達成率	—	98.0%	98.6%			
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	年度当初、女性消防団員の条例定数20人（男性を含めて150人）を確保できたが、年度中に発生した退団者分の新団員を確保できなかった。平成28年度148人（内、女性消防団員19人）
	B		
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】		
	活動内容及び広報の充実強化を図る。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 市民協働課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	地域の絆づくり登録制度
事業概要	【最終予算額：11,302千円】
	【決算額：10,210千円】 災害時の避難に不安がある方（避難行動要支援者）に、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てる。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】	
		担当課評価	地域の支援団体数が69組織中、昨年16組織から29組織と協定を締結し名簿の提供を行った。そのうち4団体が個別計画策定に取組んだ。（平成28年度末の同意登録者2,332人、個別計画策定者数147人）※平成27年度末の登録人数は2,093人
		B	

平成28年度	改善（A）	【29年度における取り組みなど】
		登録者数及び地域の支援団体の増加を図るため、あらゆる機会を活用して制度説明を行うなど広く理解を求めるとともに、地域の支援団体が個別計画策定に取組むための基盤づくりを図る。

平成28年度	委員会意見	【評価等に対する意見】
		委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	学校教育課
-----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	泉佐野市少年消防クラブ員の東北被災地訪問（泉佐野市の未来を創る教育事業）
事業概要	【最終予算額：1,874千円】
	【決算額：1,374千円】 泉佐野市教育委員会の「未来を紡ぐ子どもの絆」プロジェクトの一環として泉佐野市少年消防クラブ員の小学生を東北被災地へ派遣し、現地の少年消防食クラブ員との交流や復興状況の聞き取りなどの防災学習を実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B 泉佐野市少年消防クラブ員の市内小学生13名を東日本大震災の被災地へ派遣した。被災地である石巻市では、現地の少年消防クラブ員との交流を図り、地元消防職員から震災時の活動などの説明を受けるなどし、防災意識を高めるとともに地域を越えた絆を結ぶことができた。27年度は市内小学生22名。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 本市と特産品相互協定を締結しました、福島県相馬市に訪問させていただき、相互の児童で交流を図り震災時の状況及び復興状況を見聞することにより、被害の現実や人々の抱える課題について理解し、今後の防災教育に役立てたい。
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④食育の推進	
事業名	家庭や学校などにおける食育推進	
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】 学校などでの栄養バランスのとれた食事の提供により、健康の増進、体力向上を図るとともに、家庭における朝食の重要性など、食に関する正しい知識の啓発を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：食育の認知度							
		KPI：5年後に80%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	71.5%						平成31年度にアンケート実施予定
		達成率	—						
		②目標事項：朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）							
		KPI：5年後に95%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	87.7%						平成31年度にアンケート実施予定
		達成率	—						
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								
平成28年度	評価（C）	担当課評価	【28年度評価】 平成26年3月に策定された泉佐野市食育推進計画に基づき、庁内推進委員会を設置し、事業を推進している。家庭や学校などにおける食育推進の取り組みとしては、「共食」の重要性や朝食を食べることによる効果を学校などを通して家庭へ啓発したり、ファミリー親子料理教室や子どもクッキングなどを実施した。						
		B							
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 庁内推進委員会を利用し、連携を強化していく。							
		【評価等に対する意見】							
委員会意見	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④食育の推進	
事業名	地域における食育推進	
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】 医師会など医療関係団体による啓蒙活動や、食に関連するボランティア団体との協働による食生活指導などにより、生活習慣病の発症や重症化の予防を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：食育の認知度							
		KPI：5年後に80%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	71.5%						平成31年度にアンケート実施予定
		達成率	—						
		②目標事項：朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）							
		KPI：5年後に95%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	87.7%						平成31年度にアンケート実施予定
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	平成26年3月に策定された泉佐野市食育推進計画に基づき、関係団体と連携を密にとり、事業を推進している。地域における食育推進の取り組みとしては、基本健診時に若年者への啓発や生活習慣病予防のための試食や展示、イベント等における啓発などを実施した。また、特定健診保健指導及び健康教室や相談でアドバイスを行った。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 関係団体との連携を強化し、ネットワークを広げることで、市民の視点を取り入れた事業を実施していく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 農林水産課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	④食育の推進
事業名	生産者における食育推進
事業概要	【最終予算額： ー 】 【決算額： ー 】
	農業体験などにより、食材についての知識を得ると共に、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む。また、地元の給食への提供などにより地産地消を推進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	ー					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	ー					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	ー							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 B 若手農業者グループによる保育所園児、幼稚園児童に対する芋ほり体験や、女性農業者グループによる小学生に対する落花生収穫体験、若手漁業者による小学生に対する地曳網漁業体験などの体験機会の提供により、地元食材に対する知識の向上や自然の大切さについての理解に努めた。（平成28年度実績）芋ほり体験：1回開催・204名参加、落花生収穫体験：1回開催・112名参加、漁業体験：1回開催・103名参加
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 引き続き、各種体験を通じて地元食材に対する知識の向上や自然の大切さについての理解に努める。
		【評価等に対する意見】
	委員会意見	委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 環境衛生課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	⑤エネルギーの地産地消
事業名	泉佐野電力の運営（泉佐野電力からの電力受給調整）
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】
	一般財団法人泉佐野電力を設立し、その後、泉佐野電力から市への電力受給を促進、調整する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：泉佐野電力電気供給量（デマンド値）							
		KPI：5年後に15,000kW/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	5,000kW	4,859kW	6,895kW				
		達成率	－	32.4%	46.0%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	－								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】	
		担当課評価	28年度は、低圧供給開始で296施設に供給、高圧21箇所追加の55施設に電気を供給、デマンド値（最大需要電力）は、想定した現状値（7000kw）に近い実績値となった。
	B		
改善（A）	【29年度における取り組みなど】		
	29年度は、現状契約の継続に加え、りんくうタウン駅ビル東棟の高圧契約を追加しデマンド値（最大需要電力）アップを目指す。また、平成29年度から「ガス自由化」に伴い公共施設を対象としたガス小売り事業の開始を目指す。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり	
事業名	健康マイレージ事業	
事業概要	【最終予算額：739千円】	
	【決算額：482千円】 健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取組みをポイント化して記念品等の付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図る。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：特定健診受診率							
		KPI：5年後に60%/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	31.7%	32.9%	33.3%				
		達成率	—	54.8%	55.5%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								
平成28年度	評価（C）	【28年度評価】							
		担当課評価	参加者の増加に向け、制度の周知や参加しやすい工夫等に努める必要がある。マイレージ目標ポイント（50ポイント）達成者の推移は、平成27年度157人、平成28年度161人となる。						
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】							
		マイレージ対象講座を行政以外の施設に拡大など充実に努める。また、他課共同により導入される地域ポイントへの返還を実施し、新規の参加者増加に努める。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 健康推進課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり
事業名	健康増進事業
事業概要	【最終予算額：74,535千円】
	【決算額：60,315千円】 健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取組みをポイント化して記念品等の付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】
		担当課評価 C 平成27年度から大腸がん検診の無料・個別化に取り組み、受診者数は増加がみられるが、他のがん検診等の受診率は低い状況となっていたため、がん検診勧奨のクーポン券送付を実施し、受診機会の周知に努めた。平成28年度受診率は、肺がん検診3.2%、子宮がん検診17.2%、乳がん検診13.3%、胃がん検診2.4%、大腸がん検診5.0%。平成27年度受診率は、肺がん検診3.3%、子宮がん検診18.1%、乳がん検診14.1%、胃がん検診2.6%、大腸がん検診5.4%。
	改善 (A)	【29年度における取り組みなど】 受診機会を増やし、各種検診を同時に受けられるようにするために、集団のセット検診を多数設定し、一部を女性のための「レディース検診」日として設定するとともに、受診勧奨や再勧奨のハガキ送付を実施して検診受診率向上に努める。また、検診の予約や受診相談に應じるコールセンターの設置により市民の利便性を向上させたとともに、先行予約やインターネット予約を開始し、その利便性を更にあげる。主治医のもとで受診できる個別検診についても従来と同様に医師会と連携を図り、充実させていく。
		委員会意見
		【評価等に対する意見】
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分		担当課	高齢介護課・健康推進課						
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する								
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり								
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり								
事業名	地域健康教室事業（福祉関連出張講座の開催）								
事業概要	【最終予算額： — 】			【決算額： — 】					
	<p>・高齢者が自ら介護予防を意識できるよう出張講座（介護予防、認知症予防、健康づくり）を開催し、要介護状態にならない生活の支援を図る。また、虐待、成年後見制度、消費者被害防止等の出張講座については、現状報告や制度の趣旨説明等、住民への周知及び理解を図る。</p> <p>・介護予防プログラムを実践し、介護予防・認知症予防・健康づくりに取り組むとともに、地域住民の生きがいの場を広げ、コミュニティの創出と活性化を図る音楽介護予防教室を開催する。</p>								
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：出張講座実施回数							
		KPI：5年後に75回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	69回	105回	116回				
		達成率		140.0%	154.7%				
		②目標事項：出張講座受講者数							
		KPI：5年後に3,100人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2,914人	2,367人	3,925人				
		達成率		76.3%	165.8%				
		③目標事項：音楽介護予防教室実施回数							
		KPI：4年後に600回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	—	392回				
		達成率	—	—	65.3%				
		④目標事項：音楽介護予防教室参加者数							
KPI：4年後に12,000人/年									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—	—	8,059人						
達成率	—	—	67.2%						
平成28年度	評価（C）	【28年度評価】							
		担当課評価	<p>・出張講座の数値については、高齢介護課・保健センター・地域包括支援センター（社会福祉協議会）にて実施している合計数である。利用者数は、順調に伸びている。</p> <p>・音楽介護予防教室については、平成28年度新規事業である。昨年6月から教室開催し、当初は35カ所で開催する。11月からは10カ所追加となり、現在45ヶ所での開催しており、利用者は着実に増加している。</p>						
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】							
		チラシや広報誌以外の周知方法も活用し、利用者の増加に努めていく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 市民協働課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	防犯推進事業
事業概要	【最終予算額：200千円】
	【決算額：200千円】 児童の登下校時の安全見守り活動を展開している各小学校区の団体のうち、地域安全センター未設置の団体に対し、設置加速化事業補助金を活用（未設置3小学校区内2小学校区）し、市内全小学校区（13校区）に地域安全センターが設立された。引き続き、運営費の一部を補助し、さらなる活性化を図り、安心・安全なまちづくりを進める。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（B）	【28年度評価】						
		担当課評価	市内全小学校区（13校区）に地域安全センターが設立された。平成27年度は10校区。					
	A							
改善（A）	【29年度における取り組みなど】							
	引き続き、地域安全センターの運営費の一部を補助し、さらなる活性化を図り、安心・安全なまちづくりを進めます。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 市民協働課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	町会連合会の加入促進活動事業への補助金
事業概要	【最終予算額： 22,213 千円】
	【決算額： 14,387 千円】 地域自治の振興並びに住民の相互扶助等を図るため、泉佐野市町会連合会に対して補助金を交付し、同町会連合会は、加入する町会・自治会加入者に対して活動促進袋を配付する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：町会加入率							
		KPI：5年後に70%以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	63.2%	62.6%	61.4%				
		達成率	—	89.4%	87.7%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価 (C)	【28年度評価】	
		担当課評価	即効性のある事業ではないが、数値減少の原因については、分析が必要と考える。 平成28年度事業実績 泉佐野市町会連合会82町会中82町会で実施。(年間12回実施)
	C		
改善 (A)	【29年度における取り組みなど】		
	本事業について、H29年度も活動促進袋作成配付事業の実施主体である泉佐野市町会連合会が町会・自治会加入促進事業補助金により事業を継続します。さらには、市職員が町会・自治会と連携して未加入世帯への加入勧奨を進めていきます。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 高齢介護課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	泉佐野市三世代同居等支援事業、家族介護継続支援事業（認知症サポーター養成事業）
事業概要	【最終予算額：3,134千円】
	【決算額：1,244千円】 ・泉佐野市内における三世代同居等を促進することで、子どもを安心して産み育てられ、また、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居することとされたこども世帯に対して、予算の範囲内でその費用の一部を助成する。 ・認知症になった高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：三世代同居等支援件数							
		KPI：5年後に30件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	7件	12件				
		達成率	—	23.3%	40.0%				
		②目標事項：認知症サポーター数							
		KPI：5年後に5500人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	4,144人	4,324人	4,993人				累計
		達成率	—	78.6%	90.8%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】
		担当課評価 B ・本事業は平成26年度から行っているが、事業当初は、助成対象の条件が厳しかったため、該当者がなく、平成26年度は実績が「0」であった。平成27年度より一部要綱を改正し、条件を緩和して事業を行い、平成27年度は申請者が7名で、助成額が70万円、平成28年度は申請者12名・助成額120万円であった。徐々にであるが事業も周知されることとなった。今後も、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居の推進を行う。 ・泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、確実にサポーターを増やしている。平成27年度に引き続き平成28年度についても、市内の小学校の児童に対し、養成講座できたことがよかった。
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】 ・昨年同様、市の広報誌でのお知らせや、市外転入者や市内転居者に対し、市民課での広報チラシの配付などを行い、広く市民に周知し、申請に繋がるよう努力する。 ・泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、認知症の理解を地域住民に広める活動を行い、今後も認知症サポーターを養成していく
	委員会意見	【評価等に対する意見】
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	地域資源ブランディング事業	
事業概要	地域資源ブランディング化推進事業	
	【最終予算額：1,050千円】	【決算額：1,050千円】
	地域の魅力を再発見し、そのことにより郷土愛を育成することを目的に、地域に伝わる伝承民話をモチーフにした創生神楽を、地域住民と協働して創作する。一方、観光庁は観光のカテゴリーとして「神楽観光」を推奨しており、これら二点を結びつけるべく外部専門アドバイザーを招聘し、地域住民が主体となって当市にある幾多の民話や伝説をストーリーにした神楽の創生を支援することで、より一層の郷土愛を育み、定住促進を図り、また創生神楽鑑賞を目的とした観光客の誘客を図る。	

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：地域づくり活動団体参加者数（泉佐野シティープロモーション推進協議会 会員数）							
		KPI：5年後に150人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	68人	111人	92人				
		達成率	—	74.0%	61.3%				
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価(C)	【28年度評価】	
		担当課評価	当該事業は本年度で3年目となり、泉佐野市独自の「創生神楽」の創作を行い、また昨年同様神楽出演者となる子どもの募集や、神楽演舞の練習会も定期的に行われ、その発表の場として神楽の上演会も行っており、具体的に事業を進めている。 なお、上記目標事項①の数値は、神楽活動を担う中心的団体が平成28年度に実施した法人化移行に伴い、会員に対して会員継続の意向確認、整理作業を行ったことにより会員数が一時的に減少したもので、法人化後も会員数は着実に増加している。
	改善(A)	【29年度における取り組みなど】	
		当該事業は総務省の外部専門家招へい事業に基づき進められてきたが、3カ年で終了となり、平成28年度が3カ年目となるため、今年度をもって当該事業は終了となるが、Civic Mall事業の一環として、神楽実行委員会があるicoplに神楽活動の運営を委託していくことで、引き続き、地域の歴史と伝統を活かした「創生神楽」活動を続けていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 28 年度分

担当課 障害福祉総務課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮せるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	地区福祉委員会活動の支援（再掲）
事業概要	【最終予算額：11,094千円】
	【決算額：11,094千円】 地区福祉委員会が主催する高齢者や障害者等への見守り訪問活動【個別支援活動】や孤立防止や地域での仲間づくり、介護予防等の目的で開催する交流会や高齢者サロン活動【グループ支援活動】の支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：個別支援活動実施世帯数							
		KPI：5年後に2,100世帯/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	1,925世帯	1,980世帯	1,992世帯				
		達成率	—	94.2%	94.9%				
		②目標事項：グループ支援活動回数							
		KPI：5年後に1,890世帯/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	1,775回/年	1,935回/年	2,130回/年				
		達成率	—	102.4%	112.7%				
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成28年度	評価（C）	【28年度評価】						
		担当課評価	高齢化の進行や障害者の地域移行が進む中で、地区福祉委員会の見守り活動は、地域で支援を必要とする人の孤立死・引きもりなどの防止や福祉課題の早期発見や課題の困難化の予防などに非常に効果を上げているといえる。個別支援実施世帯数は概ね昨年と同様の数値を推移しており、グループ支援活動回数は目標値を上回る数値で推移しており、要支援者にとっても、きめ細かで充実した支援が行われた。特殊詐欺被害が増加するなかで、被害防止の啓発機会としても活用されるなど、様々な地域課題の解決に有用な活動となっている。					
	改善（A）	【29年度における取り組みなど】						
		今後、地域で生活する高齢者や障害者は増加していくことが見込まれることから、現状での要支援者への支援活動をより充実させていくとともに、新たな要支援者の発見の仕組みを強化していく必要がある。また、併せて、これらの活動を継続的に実施していくためには、活動を支える地域でのボランティアなどの担い手の育成についても、推進していくことが求められる。市としては、このようなことも踏まえ、引き続き地区福祉委員会の活動の支援を行っていく。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。